

平成 27 年度 事業報告書

平成 28 年 6 月 24 日(金曜)

社会福祉法人かわち野福社会 第 143 回理事会

場所：ケアハウスかわち野里会議室

[平成 27 年度の法人事業概況]…別紙の「決算書」参照のこと

(1) 平成 27 年度の法人全体の事業収支差額は▲3674 万円の赤字となり予算より▲279 万円悪く、前年度と比べると▲1116 万円悪化しました。特徴としては、新規事業の加納地区(サ高住・デイかんの・ヘルパー加納)が▲3909 万円の赤字で、本部を除く既存事業では+446 万円の黒字でした。なお、本部は▲212 万円の赤字でした。

今後は、新規事業である加納地区の赤字を克服するとともに、既存事業においても配食サービス事業の収支改善を急ぐ必要があります。

(2) 加納地区はサ高住が▲3093 万円の赤字でヘルパーステーション加納が▲47 万円の赤字、デイサービスセンターかんのが▲768 万円の赤字でした。

予算との比較ではデイサービスセンターかんのが予算差▲447 万円と最も厳しい状況になっています。

(3) 加納地区の経営課題

1) サ高住とデイサービスの家賃が開設前の計画より高くなった事で収益構造が厳しくなっています。

2) サ高住の生活保護受給者に減免措置をとったことや、中重度のサ高住入居者に職員が無償で見守りサービスや食事介助サービスなどを提供している事で人件費が増えています。

3) 3 月末のサ高住の入居率は 81%で 1 年目としてはまずまずですが、死亡や転居などで退居者が増えていますので、気を緩めず入居者確保の取り組みを強める必要があります。

4) “デイサービスセンターかんの”と“ヘルパーステーション加納”の地域の在宅利用者の確保が遅れています。加納の地域性に主たる原因はありますが、それを克服するための対策が不十分です。今後、地域包括やケアマネージャーへの働きかけを強め、医療生協の組合員や職員の協力をお願いする必要があります。

5) ヘルパーステーション加納ではヘルパー職員が確保できない為に楠根にお住まいの方のサービス依頼を断る状況が生まれています。今後は大東四條畷のヘルパーステーションと連携して、サービス依頼を断ることがないように努める必要があります。

(4) 既存事業の《黒字の事業所》は→ケアハウス+0.8万円、デイサービスかわち野+284万円、ヘルパーステーション横小路+84万円、ヘルパーステーション花園+259万円、配食サービス横小路+71万円で、《赤字の事業所》は→ケアプランセンター▲129万円、ヘルパーステーション八尾▲115万円、配食サービス長瀬▲9万円(予算差+53万円)でした。

なお、配食サービスは医療生協からの寄付金が横小路と長瀬の収入に144万円ずつ計上されていますので実質は配食サービス横小路が▲73万円の赤字で配食サービス長瀬が▲153万円の赤字です。

1) 前年と比べて大きく収支が悪化しているのは、デイサービスかわち野(予算差▲23万円、前年差▲249万円)、ヘルパーステーション横小路(予算差+54万円、前年差▲139万円)、配食サービス横小路(予算差▲218万円、前年差▲45万円)の3事業所です。

① デイサービスかわち野の収益の悪化は、競争激化による利用者の減少と介護報酬の引き下げが原因です。特に一日当たりの利用者が年平均で前年より▲1.63人減り、とくに12月以降は前年との差が▲2人～▲3.63人と拡大しており先行きが心配です。一刻も早く地域包括やケアマネージャーへの働きかけを強めるとともに医療生協の花園ケアプランセンターや医療生協花園診療圏の組合員活動との連携を強める必要があります。

② ヘルパーステーション横小路の収益悪化の原因は、管理者とサ責の体制が整わず営業活動ができなかったことにあります。平成28年度は昨年以上に業務体制が不安定になっていますので、一刻も早く体制を整え地域包括やケアマネージャーへの働きかけを行う必要があります。

③ 配食サービス横小路の収益悪化は、民間の弁当業者との競争が激化し利用
用の減少を食い止めるという成果を上げましたので、横小路も長瀬に習って
営業体制を強化する必要があります。

2) 前年より大幅に収益を改善したのは、ヘルパーステーション八尾(予算差▲30万円、前年差+194万円)、ヘルパーステーション花園(予算差+200万円、前年差+245万円)、配食サービス長瀬(予算差▲62万円、前年差+245万円)です。

3) なお、収益で予算差・前年差ともプラスとなったのはヘルパーステーション花園だけでした。全ての事業所がヘルパーステーション花園の営業活動に学ぶ必要があります。

(5) 特別養護老人ホームの応募と内定

平成 27 年 10 月に東大阪市より広域型特養の公募があり、医療生協かわち野の協力を得て 12 月に応募しました。平成 28 年 1 月に内定を頂き、5 月に補助金の内示を受け入札や福祉医療機構からの融資申込の準備を進めています。特別養護老人ホームの建設は法人設立の目的でもあり利用者からも大いに期待されています。

(6) 介護サービスの質の向上の面では「利用者の意欲を引き出す肯定的(ポジティブ)な介護計画の作成とチームケアの強化」に取り組むとともに、保健所の協力を得てノロウイルスの感染が発症した際の「汚物処理の実技研修」に取り組みました。またサ高住加納の経験から学び AED の操作方法の研修にも取り組みました。

(7) 職員採用の取り組みは平成 26 年度に比べて弱まり、欠員が多く出ています。平成 28 年度はこれまでの募集方法を見直すとともに、同一地域・同一業種の賃金や待遇を比較し、必要な処遇改善を行う必要があります。

特に、デイサービス・ヘルパーステーション・ケアハウス・サ高住の初任者研修終了ヘルパー(旧ヘルパー2 級)の時間給と、デイサービス・配食サービスの運転パート職員の時間給については見直しが必要と急務です。

また、「就職準備の費用の補填」や「職場を替わる際に発生する一過性の収入減の補填」などを目的とした『入社一時金』の制度も検討したいと思えます。

(8) 社会福祉法人の社会的役割を果たすため、平成 27 年度も地域の人々を対象とした月に 1 回のボランティア喫茶や 8 月の「夏まつり」に取り組みました。また、各事業所において生活困窮者を対象にした福祉見守り活動を進めるとともに、サ高住においては生活保護受給者を対象にした減免制度を継続しています。

[法人全体と事業所別の経営状況]…別紙の「決算書」参照のこと

<法 人 全体>…法人全体の 4 月～3 月の収支差額実績は▲3674 万円となりました。予算差は▲279 万円で、前年差は▲1116 万円です。

- ・収入予算差▲89 万円、前年差+1 億 556 万円、／人件費予算差▲397 万円、前年差+5415 万円、／事務費予算差▲43 万円、前年差+4680 万円、／事業費予算差+364 万円、前年差+1680 万円、
- ・【社会福祉事業 (本部+福祉事業)】 合計の収支差額は▲643 万円で予算より▲302 万円少なく、前年より▲1 万円減りました。部門別には、本部が▲212 万円(予算差▲18 万円、前年差+282 万円)、ケアハウスが+0.8 万円(予算差▲262 万円、前年差▲32 万円)、デイサービスかわち野が+284 万円(予算差▲23 万円、前年差▲249 万円)、デイサービスかんのが▲768 万円(予算差▲447 万円、前年差▲636 万円)、ケアプランが▲129 万円(予

算差▲29万円、前年差+11万円)、ヘルパーステーション横小路が+84万円(予算差+54万円、前年差▲139万円)、ヘルパーステーション八尾が▲115万円(予算差▲30万円、前年差+194万円)、ヘルパーステーション花園が+259万円(予算差+200万円、前年差+245万円)、ヘルパーステーション加納が▲47万円(予算差+254万円、前年差+322万円)となりました。

※ 本部の経費には加納地区が増えたことによる経理パート職員の人件費が計上されています。

- ・【公益事業（サ高住と配食サービス）】の収支差額は▲3030万円(医療生協の寄付金288万円を除くと▲3318万円)で、予算より+21万円多く、前年より▲1115万円悪くなりました。部門の収支差額はサ高住の収支差額が▲3093万円(予算差+303万円、前年差▲1315万円)、配食サービスが+62万円(予算差▲280万円、前年差+199万円)となりました。配食サービスの内訳は、長瀬が▲9万円(医療生協の寄付を除くと▲153万円→予算差▲62万円、前年差+245万円)、横小路が+71万円(医療生協の寄付を除くと▲73万円→予算差▲218万円、前年差▲45万円)…です。

※ 寄付金を除いた配食サービス横小路の収支が赤字になるのは初めてのことです。

- ・【横小路地区と加納地区】の収支差額は、横小路地区が+311万円(予算差▲479万円、前年差▲455万円)で、加納地区が▲3909万円(予算差+110万円、前年差▲1628万円)となりました。

<ケアハウス>…・収支差額実績+0.8万円→予算差▲262万円、前年差▲32万円

- ・収入予算差▲8万円、前年差▲80万円／人件費予算差+74万円、前年差+141万円／事務費事業費合計予算差+51万円、前年差▲229万円／減価償却費予算差+131万円、前年差+91万円
- ・収入は昨年と比べ入院された方が多く生活費(食費)が大幅に減りました。
- ・収支が悪化した原因は、1)人件費の増加(予算差+74万円、前年差+141万円)、2)水光熱費の按分変更による約60万円の負担増、3)新会計移行に伴う減価償却費の+131万円の増加です。これらがなければ予算はほぼ達成できたと思われます。
- ・上記の3つの原因の中でも特に人件費の増加に注意が必要です。ケアハウスの厨房職員が配食事業を支援することによりケアハウスの人件費が増え、加納地区が増えた事や新会計への移行準備により会計業務の残業が増えています。今後、日々の労働時間管理を強める必要があります。
- ・なお事務費事業費の合計金額は予算を上回りましたが、前年度と比べると大幅に削減することができています。今後とも、科目ごとの詳細な分析を行い更なる軽費節減が必要です。

- ・なお、平成 30 年度には補助金「民間給与改善費」の全廃が予定されていますので、それに耐え得る経営体質の転換を図る必要があります。
- ・サービスの面では、嚥下困難な方にトロミ食やミキサー食を提供するなど誤嚥性肺炎を予防する取り組みが進みました。また法人内のケアマネージャーやデイサービス、ヘルパーステーションとの連携が強まり、入居者への介護サービス・生活支援サービスが充実しました。

- <デイかわち野> …
- ・収支差額実績+284 万円→予算差▲23 万円、前年差▲249 万円、
 - ・収入予算差▲322 万円、前年差▲646 万円／人件費予算差▲267 万円、前年差▲348 万円／事務費事業費合計予算差▲52 万円、前年差▲6 万円／減価償却費 予算差+21 万円、前年差+8 万円
 - ・民間介護事業者との競争に負け地域の在宅利用者が減って収入が前年(前年比▲13.6%)を大きく下回りました。収益の面では人件費を削って収支差額の落ち込みを少なくできましたが、人件費の削減も限界に来ており利用者の減少に歯止めがかからなければ一気に赤字に転落する危険性もあります。
 - ・思い切って管理者業務の多くを地域包括やケアマネージャーへの営業活動に集中させ、先ずは利用回復に全力を上げる必要があります。
 - ・サービスの点ではご家族やケアマネージャーとの連携も良くとれ、利用者本位の親切丁寧なサービスが提供されています。ケアハウスとの連携も強まり、入居者の生活・健康にとって欠かせない役割を果たしています。

- <デイかんの> …
- ・収支差額実績▲768 万円→予算差▲447 万円、前年差▲636 万円
 - ・収入予算差▲866 万円、前年差+1612 万円／人件費予算差▲190 万円、前年差+1537 万円／事務費事業費合計予算差▲280 万円、前年差+661 万円／減価償却費 予算差+39 万円、前年差+39 万円
 - ・利用者の確保が計画通り進まず、収入が予算を大幅に下回ったことで大きな赤字となりました。収益構造の面では、増加した収入の大半が人件費に回っており、事務費事業費の増加がそのまま赤字になってしまっています。
 - ・サ高住入居者の利用は順調に増えていますが、地域の在宅利用者を増やすことができていません。医療生協のケアマネージャーだけでなく、他のケアプラン事業所や地域包括などとの連携を強めるとともに、組合員への浸透をはかり地域の在宅利用者を増やす事が必要です。
 - ・サービスの面ではサ高住の中重度の利用者を多く受け入れ、きめ細かいサービスを提供することができています。今後は入浴介助などの充実を進めるとともに、地域の在宅利用者に魅力を感じて頂けるようなサービスの開発・充実に取り組む必要があります。

- <ケアプラン>…
- ・ 収支差額実績▲129万円→予算差▲29万円、前年差+11万円
 - ・ 収入予算差▲27万円、前年差+22万円／人件費予算差+6万円、前年差+19万円／事務費事業費合計予算差▲0.7万円、前年差+4万円／減価償却費 予算差▲3万円、前年差▲3万円
 - ・ 収入が予算を下回ったことで、その分、収支差額も予算を下回りました。今後とも利用者確保の努力と人件費と事業費のきめ細かい統制が必要です。
 - ・ サービス面では、利用者に寄り添った親切丁寧な対応が引き続き利用者やご家族に喜ばれています。また、他部門への利用者の紹介やケアハウス介護部門への支援など法人経営全体への貢献も評価されます。

<ヘルパー横小路>…※ 介護保険サービスと障害福祉サービスを合算した結果です。

- ・ 収支差額実績+84万円→予算差+54万円、前年差▲139万円
- ・ 収入予算差▲78万円、前年差▲286万円／人件費予算差▲83万円、前年差▲86万円／事務費事業費合計 予算差▲48万円、前年差▲27万円
- ・ サ責の業務体制が不安定になり営業活動ができず利用者と収入が大きく減りました。しかし、サ責の休職やパートサ責の登用などで人件費が減り、収支差額は予算を超過達成することができました。
- ・ 平成28年度も不安定なサ責体制が続いていますので、まずはサ責体制の確立が急務です。
- ・ サービスの面ではケアハウスとの連携がかつてなく強まり、ケアハウス入居者の生活と健康に大きく貢献しています。

- <ヘルパー八尾>…
- ・ 収支差額実績▲111万円→予算差▲30万円、前年差+194万円
 - ・ 収入予算差+47万円、前年差+192万円／人件費予算差+97万円、前年差+100万円／事務費事業費合計 予算差▲33万円、前年差▲78万円
 - ・ 平成27年度は、管理者とサ責の体制を安定させるため正規職員2名の特別体制をひきました。結果、体制が安定し利用者も順調に増えましたが人件費が予算をオーバーしたため収支予算の達成に今一步とどきませんでした。
 - ・ 平成28年度は、訪問介護部門統括の人件費の一部を他のヘルパーステーションに按分することで経営構造の適正化を進めます。
 - ・ サービスの面では、介護保険外の収益性の低いサービスや時間帯・介護技術などの点で困難なケースにも積極的に対応し、利用者やご家族のみならず地域包括やケアマネージャーからも高い評価を得ています。

- <ヘルパー花園>…
- ・ 収支差額実績+259万円→予算差+200万円、
 - ・ 収入予算差+256万円、前年差+1061万円 / 人件費予算差+86万円、前年差+805万円 / 事務費事業費合計 予算差▲34万円、前年差+19万円
 - ・ 管理者の営業努力と「どんなサービスも断らない姿勢」が地域包括やケアマネージャーの信頼を得て利用(前年比 163%)を大きく増やしました。
 - ・ またヘルパー職員の不足を管理者がカバーすることで人件費が抑えられ収支差額が大幅に良くなりました。
 - ・ サービスの面では、生協病院の患者さんの「入院」「入所」「死亡」などの急変にも機敏に対応し、利用者・ご家族・地域包括からも高く評価されています。
 - ・ 長瀬地域の利用者が増えていることや平成29年度に長瀬に特養がオープンすることを考えると、長瀬での新しいヘルパーステーションの開設や花園事務所の長瀬への移転を検討する必要があります。

- <ヘルパー加納>…
- ・ 収支差額実績▲47万円→予算差+254万円、前年差+322万円
 - ・ 収入予算差▲103万円、前年差+936万円 / 人件費予算差▲350万円、前年差+600万円 / 事務費事業費合計 予算差▲15万円、前年差+16万円
 - ・ 予算は達成できませんでしたがサ高住の入居者を中心に利用(前年比 220%)を大幅に増やしました。
 - ・ またヘルパー職員の不足を管理者が補ったことで人件費が抑えられ、収支差額は予算・前年を大幅に超過しました。しかし、今後の利用者の増加に対応ができるよう、一刻も早く業務体制を整える必要があります。とくに、早朝・夜間・土日祝日のヘルパー職員の確保が急務です。
 - ・ サービスの面では、サ高住の入居者の生活と健康を支える上で、無くてはならない存在になっています。一方で、職員不足から楠根地域からのサービス依頼を断るという事態が生まれており、今後は大東四條畷のヘルパーステーションとの連携も含めて、サービス依頼を断ることがないように努める必要があります。

- <サ高住加納> …
- ・ 収支差額実績▲3093万円→予算差+303万円、前年差▲1315万円
 - ・ 収入予算差+978万円、前年差+7595万円/人件費予算差+126万円前年差+2908万円/事務費事業費合計 予算差+502万円、前年差+6017万円/減価償却費 予算差+23万円、前年差+8万円/借入金利息支出 予算差+11万円、前年差+27万円
 - ・ 3月末のサ高住の入居状況は75室中61室が埋まっており、目標の65室にもう一步届きませんでした。収入予算は達成していますが、収入にはヘルスケアプランからの600万円の寄付金が含まれていますので、

実質の収入予算差は+378 万円で前年差は+6995 万円です。

- ・ 収入の伸びと比べて人件費と事務費事業費合計の伸びが大きくなっています。特に事務費事業費の伸びが収入の伸びの大半を占めていますので、今後の大きな課題と言えます。
- ・ また、退居者が増えていますので、平成 28 年度はこれまで以上に新規利用者の獲得に力を入れる必要があります。
- ・ サービス内容では食事や生活支援サービス、介護や医療連携サービス…などの点でいずれも高い評価を受けています。また、入居者数が増えることによってノロウイルスやインフルエンザ等の集団感染の危険性が高まりますので、今後も衛生管理と感染症予防の取り組みに万全を期す必要があります。

<配食サービス>

[長瀬センター]・長瀬センターの収支差額は▲9 万円(医療生協の寄付を除くと▲153 万円)で、予算差▲62 万円、前年差+245 万円/収入が予算差+243 万円、前年差+226 万円/人件費予算差+108 万円、前年差▲22 万円/事務費事業費合計 予算差+198 万円、前年差+47 万円/減価償却費予算差▲1 万円、前年差▲3 円…です。

- ・ 管理者の営業努力により食数の減少に歯止めがかかり、収入は前年比で 106.9%の伸びを実現することができました。また、事務費事業費についても伸び率を低く抑える事ができ、結果として収益構造を大きく改善しました。しかし、まだ実質▲153 万円の赤字体質でありますので、引き続き利用を増やし収支を改善する必要があります。
- ・ 特に平成 29 年 4 月からは配食サービスが介護保険から新総合事業に移され、補助金の削減が予想されますので、「弁当容器の変更」や「利用料引落の拡充」「パンフレット配布」「夕食弁当開始」などの取り組みが収益の改善につながるよう努力する必要があります。
- ・ サービスの面では、味や安否確認で利用者から高い評価を受けています。今後は、接客面でも全員が高い評価を受けるように努めて下さい。
- ・ また、調理スタッフや配達スタッフの欠員が埋まっていないので、一刻も早く職員を採用し業務体制を安定させる必要があります。

[横小路センター]・横小路センターの収支差額は+71 万円(医療生協の寄付を除くと▲73 万円)で、予算差▲218 万円、前年差▲45 万円/収入が予算差▲258 万円、前年差▲62 万円/人件費予算差▲8 万円、前年差+10 万円/事務費事業費合計 予算差▲25 万円、前年差▲15 万円/減価償却費予算差▲6 万円、前年差▲6 万円…です。

- ・ 平成 26 年度に続いて食数が減り収入は昨年比 97%となりました。平成

25 年度と比較すると収入は▲255 万円(87%)となっています。長瀬センターとの違いは営業活動にありますので、一刻も早く営業体制を確立する必要があります。

- ・ 特に、平成 28 年度から取り組む「弁当容器の変更」や「利用料引落の拡充」「パンフレット配布」「夕食弁当開始」などの改善が利用拡大と収益改善に結びつくよう営業活動を強める必要があります。もし営業活動が強化されなければ、これらの改善も『経費の増加と効率の悪化で、収入は少し増えたが収益は悪くなった』という事態になりかねません。
- ・ サービスの面では、東大阪市の依頼を受けて 2 月～3 月に川福会から配食利用者の引継ぎを行いました。この取り組みは、川福会の配食サービスを利用されていた利用者の生活を守る取り組みであっただけでなく、東大阪市の福祉事業の後退を食い止める取り組みでもありました。苦労も多く経営的には持ち出しの多い取り組みでしたが社会的に果たした役割や貢献は大変大きなものでした。今後は、この取り組みを配食事業の発展の契機にしたいと思います。
また、味の改善や嚥下食、個別の特別食、再配達などの取り組みも前進し、既存の利用者から喜ばれているとともに、川福会から引き継いだ利用者からも好評を得ています。
- ・ なお、配達エリアと配達件数が増えているにもかかわらず、配達職員の欠員が続いており、ケアハウスの厨房業務や経営にも影響が出ていますので、一刻も早く体制を整える必要があります。

- < 資 金 >…
- ・ 法人全体の平成 27 年 3 月末の預金残高は 3 億円で、前年同月の 5966 万円と比べ+2 億 4034 万円増えていますが、借入金も+2 億 5588 万円増えていきますので資金的には大変厳しい状況です。
短期借入金を除く年間の資金収支差額は+1309 万円ですが、新しい 5000 万円の長期借入金によって資金が回っている状態です。
 - ・ なお、資金収支差額+1309 万円の事業区分の内訳は【社会福祉事業】が+1051 万円で【公益事業】が+257 万円となっています。
ちなみに、長期借入金を除いた経常の資金収支でマイナスになっている拠点は【かわち野加納拠点区分(デイかんの、ヘルパー加納)】▲1272 万円、【かわち野八尾拠点区分(ヘルパー八尾)】▲103 万円、【かわち野里加納拠点区分(サ高住)】▲2844 万円、…の 3 拠点です。